

元福岡教育大 平田 昌 東筑紫短大 花崎正子

西九州大家政 河野孝子 ○活水女短大 赤星礼子

目的 伊万里市大川町の高齢者（60歳以上）の家族関係を明らかにする。

方法 高齢者の家族関係を、その生活形態、家族における役割、そして家族との接触状況の3つの側面から調査分析した。

結果 高齢者の8割が「子ども」と同居しており、さらにその8割以上が子どもたちと「同じ棟・生活費も一緒」という生活形態をとっている。「子らとの同居」に対する意識は、生涯同居型71%、晩年同居型14%と同居志向が高い。また、その場合「同じ棟・生活費も一緒」を9割近く支持している。つまり、現在の生活形態を肯定している。

高齢者の97%が、家庭内の仕事を分担している。仕事の内容は、男女共に多いのが「留守番」「孫の世話」で、女性に多いのが「食事の世話」「掃除」「洗たく」など、男性では「庭の手入れ」「経済的援助」などである。家庭内での役割に性差がみられる。さらに調査対象に農家世帯が多いことが、高齢者の家庭内での仕事分担を大きくしている。

家族との団らんの機会は、「多い方」45%、「少ない方」35%である。高い老親子同居率に反して団らんの機会は少ない。また、家族から「大切にされている」と思う高齢者は72%であるが、総理府調査（昭和55年）と比較すると約2割少ない。

なお、30歳代から50歳代の農業経営主への面接調査も実施したが、これらの世代もまた「同じ棟・生活費も一緒」の生涯同居を支持し、次の世代にもそれを期待している。農業経営にとって老親が家庭内での仕事を分担してくれることが不可欠なのである。長期化する高齢期と経済的基盤の動向が、今後の大川町の老親子関係のあり方を方向づけよう。